

安全を追求し続け、弛まぬ努力を積み重ねる

当社は、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故を重く受け止め、福知山線列車事故のような重大な事故を二度と発生させないことをJR西日本グループすべての思考、行動の原点とし、確固たる決意のもと安全性向上の取り組みを積み重ねてまいりました。

2023年度は、これまで積み重ねてきた取り組みを福知山線列車事故の教訓である「安全の実現に欠かせない視点」に照らし合わせて確認するとともに、2023年1月に京都地区を中心とした降積雪への対応において、多くのお客様に多大なるご迷惑をおかけしたことを踏まえ、「お客様を想い、ご期待にお応えする」ことを強く意識していくことで安全に対する向きあい方を深め、組織風土として醸成することに取り組むべく、「JR西日本グループ鉄道安全考動計画2027」をスタートさせました。

計画の初年度である2023年度は、お客様の状況に鑑みた考動を確実に実践するために、経営層が率先してお客様起点、現場起点の考動に取り組むとともに、経営層をはじめとした社員一人ひとりが「何よりも安全を優先し」「お客様を想い」「自ら進んで」「仲間とともに」「視点に照らして」という「大切にしたい5つの価値観」を共有し、主体的な安全考動を積み重ねてまいりました。さらには、互いを認めあい、率直に発言し、挑戦を通じて学び高めあう「心理的に安全なチーム」づくりや、系統や組織をこえて現場の課題を共有し、仲間とともに「現場起点の考動」による課題の解決に取り組んでいます。

加えて、駅ホームや踏切の安全対策や、地震、降雨対策をはじめとした防災・減災、新製車両への更新、駅構内や車内の防犯対策、労働災害防止等について、安全性の維持・向上に向けた設備の強化や拡充、AI等も活用した新技術の導入を図るとともに、仕組みやルールを見直し改善することでそれらの有効性を高めてまいりました。

しかしながら、2023年8月にグループ会社の1名が、12月には協力会社の1名が死亡する鉄道労災を発生させてしまいました。ともに働く仲間のかげがえのない命を失ったことを重く受け止め、実態把握に基づき安全対策を確実に実行してまいります。

また、2024年1月1日に発生した能登半島地震では、金沢支社エリアの複数の線区が被災しました。特に七尾線では被害が大きく、国や自治体、地域の皆様に多大なるご協力をいただき、2月15日に津幡～和倉温泉駅間の全区間を復旧させることができました。あらためて感謝申し上げます。

私たちの安全の取り組みに終わりはありません。いかなる状況にあっても、安全性の向上は経営の最重要課題であり、「お客様を安全に目的地までご案内すること」は不変の使命です。このことを強く認識し、JR西日本グループ一丸となり弛まぬ努力を積み重ね、企業理念に掲げた「お客様から安心、信頼していただける鉄道」を築き上げていきます。私自身、確固たる決意のもとリーダーシップを発揮してまいります。

お客様や地域の皆様におかれましては、本報告書をご高覧の上、ご意見やご助言をいただければ幸いです。

代表取締役社長

長谷川一明

